

人はどのような音楽でリラックスできるのか

石井 菜々子 川村 由香 駒城 早希 阪野 萌絵 平田 瑞季 峯山 菜緒

要旨

ヒトはどのようなテンポの音楽を聴くとリラックスできるのかを対象実験で比較して調べた。その結果、予想に反して音楽のテンポに関係なく音楽を聴かないほうがリラックスできることが検証できた。

キーワード：心拍数，音楽，リラックス

1 序論

わたしたちのグループは同級生を対象に「リラックスをする時に音楽を聴きますか。」という質問をした。その結果、リラックスをしたいときに音楽を聴くという人が多かった。そこで音楽を聴くことで本当にリラックスできているのか、また、どのようなテンポの音楽を聴くことでリラックスできるのかを、平常時と音楽を聴いた後の心拍数との差を比較することで明らかにしようと考えた。

文献¹⁾には「自律神経は交感神経と副交感神経の2つでできています。」「とくに交感神経のほうは、私たちが緊張したり興奮したりしているときに働いている神経です。」「もう一方の神経は副交感神経で、別名「安息」の神経と呼ばれています。たとえば、夜間睡眠中に血圧が下がり、心拍が減るのは、この副交感神経が強く働いているからなのです。」と書いてある。そこで、今回の実験では、心拍数が下がると安息すなわち、リラックスしたと定義した。

また、文献²⁾に「そして結論としていえることは、聴き手の好みや、モーツアルトを聴いた経験の有無にかかわらず、モーツアルトの音楽により聴き手は必ずところが穏やかになり、空間知覚が改善され、より明確に自己が表現できて、こころと頭の両方で意思の疎通が図られるという結論に達せられたようである。」と書いてある。そこで、今回の実験では、モーツアルトの曲を聴いてもらうことにした。

2 実験方法

楽な体勢で椅子に座って、ヘッドフォンをつけて目を閉じてじっとしてもらい、そして、血圧計をつけた状態で実験を始めた。(図1)

まず、平常時の心拍数を測るために、音楽をかけずにじっとしてもらい、ここで一度心拍数を測った(2分後)。次に対照実験として、①モーツアルト交響曲第17番第1楽章(テンポの速い曲)、②モーツアルト交響曲第6番第2楽章(テンポの遅い曲)、③音楽をかけない、をそれぞれ2分ずつじっとしてもらい、ここでもう一度心拍数を測った(4分後)。

高校1年生35人に、誤差を少なくするために2回測って平均を出した。



図1 実験の様子

3 実験とその結果

(1) 仮説の設定

文献²⁾には「心拍数は振動数、テンポ、音量のような変化する音楽的要素に反応し、音の

3 4 M

リズムに合わせて速くなったり遅くなったりする傾向がある。」と書かれている。

そこで、音楽のテンポが変わることで心拍数に変化が出るという次の仮説を設定し、上記の①②③を聴いてもらうことにより検証することを試みた。

【仮説】 音楽のテンポが遅いと心拍数は下がり、音楽のテンポが上がると心拍数が増える。

(2) 結果

次の図はすべての結果を平均して、方法別に平常時の心拍数を基準として対照実験後の心拍数の変化を示したものである。

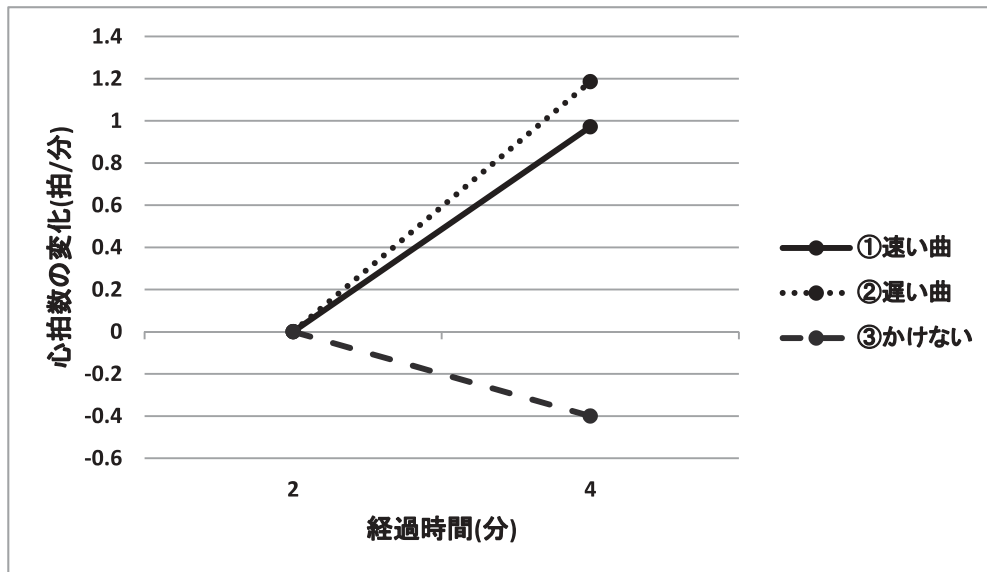


図 2 心拍数の変化

4 結論

聴いた音楽のテンポに関係なく、音楽を聴くことで何もしない時よりも、心拍数が増えることが検証できた。このことより今回の実験では、ヒトは音楽のテンポに関係なく音楽を聴かないほうがリラックスできることが分かった。しかし、実験だということによって緊張した人がいたり、周りの環境が一定でないことから、実際にリラックスしようと思って音楽を聴く場合との間に、誤差が生じたことが考えられる。環境を整え一定の条件で実験をしていくことが今後の課題である。また、今回の実験ではクラシックを聴いてもらったため、曲のジャンルを変えると結果も変わる可能性が考えられる。

【引用・参考文献】

- 1) 今井潤：わかりやすい高血圧Q&A 改訂新版，保健同人社，p. 11，(2007)
- 2) ドン・キャンベル：モーツァルトで癒す，日本文芸社，p. 3, 97，(1999)

色のイメージによる温度の感じ方の違い

池田 貴裕 田中 備 谷本 一央 山崎 弘平

要旨

色による温度の感じ方の違いを赤、青、白、黒、緑の5色を用いて実験を行った。赤は温かく感じ、青は冷たく感じる傾向があり、白、黒、緑から傾向は読み取れなかった。このことから赤と青はイメージによる影響を受け、白、黒、緑はイメージによる影響を受けないことが分かった。

キーワード: 温度の感じ方, 色, イメージ

1 序論

暑い時期のお店の内装は寒色系であることが多く、寒い時期のお店の内装は暖色系であることが多いことから、色の違いによって感じる温度に差が出るのではないかと疑問に思い、本研究に至った。

2 仮説

温かいイメージがある色は実際に温かく感じ、冷たいイメージがある色は冷たく感じる。

アンケートについて

赤、青、黒、白、緑の5色について温かさと柔らかさのイメージについてアンケートを行った。X軸を温かさ指数、Y軸を柔らかさ指数とし、それぞれ10段階で数値として表した。被験者はその色が持つイメージにふさわしいと思う場所に点を書いた。表1は各色の分布を示したものである。

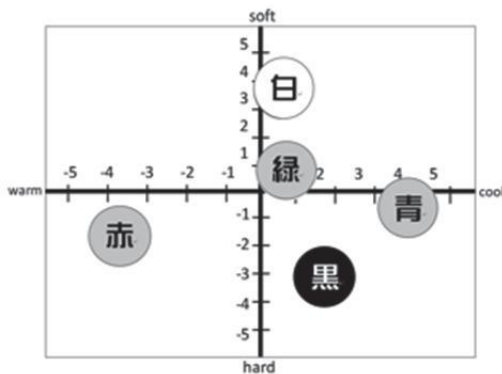


図1 色のイメージに関するアンケート結果

3 実験方法

天城高校一年生32人を対象に以下の実験を行った。

- ① 機械を使って水温を37°Cに保つ。
- ② 最初に基準となる37°Cの水に指を入れ、温度を覚える。
- ③ 被験者の目の位置に色紙を取り付けたビーカーをセットし、被験者はビーカーの中が見えないように指を入れる。
- ④ 基準のビーカーの水温と比べて「暖かい」「冷たい」「同じ」のいずれかを答えさせる。



図2 実験に用いたビーカー

4 実験結果

表1は色ごとの温かさの感じ方の違いをまとめたものである。赤は全体の50%の人が暖かいと答え、12.5%の人が冷たいと答えた。また青は全体の37.5%の人が冷たいと答え、暖かいと答えた人はいなかった。本来であれば、温かさは変化しないので、全員「同じ」を選択した分布となるはずである。

この分布を基準とし、それぞれの色の分布とT検定を行った。その結果、p値(有意水準は0.05)が赤は0.0039、青は0.0006、黒は0.6753、白は0.3503、緑は0.3005となり、赤と青に有意差が認められた。

表1 実験結果

	赤	青	黒	白	緑
暖かい	16人 (50.0%)	0人 (0.0%)	10人 (31.3%)	7人 (21.9%)	14人 (43.8%)
同じ	12人 (37.5%)	20人 (62.5%)	10人 (31.3%)	14人 (43.8%)	9人 (28.1%)
冷たい	4人 (12.5%)	12人 (37.5%)	12人 (37.5%)	11人 (34.4%)	9人 (28.1%)

3 5 M

赤いビーカーについては、実際の温度より温かく感じる人が多く、青は実際の温度より冷たく感じる人が多いことが明らかになった。

また、緑、黒、白について差は見られなかった。

5 考察

仮説通り、赤いビーカーについては、温かいイメージがあるため実際の温度よりも温かく感じる人が多く、青いビーカーについては、冷たいイメージがあるため実際の温度よりも冷たく感じる人が多かった。これは、赤には炎、青には水などの温度に関するイメージの強いものに容易に結びつくためだと思われる。緑、黒、白についてはX軸に関して0付近に集中しているため温度の感じ方にほとんど差は見られなかった。

6 今後の課題

本研究は赤、青、白、黒、緑の5色のイメージと温度の感じ方を調査したが、今後はその色や色の濃淡の違いによる温度の感じ方について調査する。

【参考文献】

- ・伯水永志 物流現場において重さの判断に及ぼす色彩の影響に関する研究 東京商船大学卒業論文, (2004)

色による重さの感じ方の違い

野島 康平 佐田 この実 岡本 紗季 酒本 陽生

要旨

色による重さの感じ方の違いを赤、青、黒、白、緑の5色を用いて実験を行った。赤と黒は重く感じ、白は軽く感じる傾向があり、緑、青から傾向が読み取れなかった。またこの実験結果を元に、「色の濃淡が濃いほど重く感じ薄いほど軽く感じる」と仮説を立てて追加で実験を行った。結果は青については仮説通りの結果が得られた。赤、緑については、仮説通りの結果が得られなかった。このことから赤、白、黒はイメージによる影響を受け、青は明度の影響を受けることが分かった。

キーワード:色のイメージによる重さの感じ方, 色の濃淡による重さの感じ方

1 序論

宅配業者は色による重さの感じ方の違いを利用して段ボールの色を変えている。⁽¹⁾ 伯水永志によると色の明度が高いものは軽く感じ、明度の低いものは重く感じるということが分かっている。これに興味を持ち、色に対するイメージとして、重いイメージがある色は実際に重く感じ、軽いイメージのある色は軽く感じると考え研究を行った。

アンケートについて

赤、青、黒、白、緑の5色について温かさと柔らかさのイメージについてアンケートを行った。X軸を温かさ指数, Y軸を柔らかさ指数とし、それぞれ10段階で数値として表した。被験者はその色が持つイメージにふさわしいと思う場所に点を書いた。表1は各色の分布を示したものである。

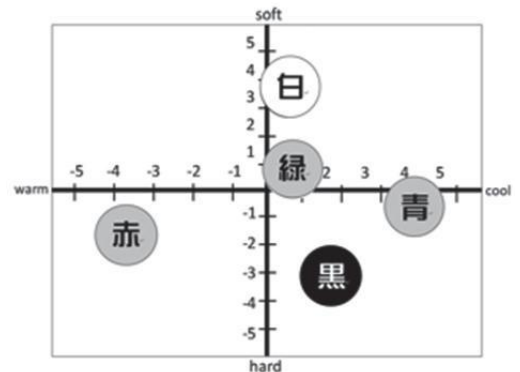


図1 色のイメージに関するアンケート結果

I-1 仮説

図1より黒と白については硬さのイメージが硬いほど重く感じ、柔らかいほど軽く感じ、赤、青、緑については、温かさのイメージが温かいほど重く感じ、冷たいほど軽く感じると考えた。

I-2 実験方法

1. 50mLの水を入れた同じ型のビーカーに赤、青、黒、白、緑の色紙を被せる。

2. 被験者は目を瞑り基準となるビーカーを持ちあげ重さを覚える。

この時基準となるビーカーは上記の5色の中からランダムに選んだものである。

3. 被験者は目を開け色のついたビーカーを見ながら持ち上げる。



図2 実験に用いたビーカー

4. 被験者は基準となるビーカーと比べて重い・同じ・軽いのをいずれかを答える。
5. 2, 3の手順を赤, 青, 黒, 白, 緑の順に繰り返す。

I-3 実験結果

表1は、それぞれの色に対する重さの感じ方をまとめた表である。

表1の構成比から赤と黒は重く感じ、白は軽く感じる傾向があり、緑、青からは傾向が読み取れなかった。

I-4 考察

赤, 緑, 黒, 白については仮説通りの結果が得られた。緑については図1より、緑に対するイメージにバラつきがあり重さの感じ方にもバラつきがあるため、緑はイメージの影響を受けないことが明らかになった。青はX軸に関するイメージが仮説上では軽く感じる場所に位置しているが、重く感じる傾向にあるため仮説とは異なった結果となった。

仮説通りの結果を得られなかった青は水色や藍色、緑は黄緑のように濃淡によって持つイメージに差がある。重さを感じる時に色のイメージによる影響を受けない色が見られたため実験結果にバラつきが出た。そこで、色の濃淡による重さの感じ方の違いを調査した。

表1 I-3 実験結果

	赤	青	黒	白	緑
重い	38人 (51.4%)	29人 (39.2%)	33人 (44.6%)	16人 (21.6%)	25人 (33.8%)
同じ	19人 (25.7%)	26人 (35.1%)	27人 (36.5%)	22人 (29.7%)	26人 (35.1%)
軽い	17人 (23.0%)	19人 (25.7%)	14人 (18.9%)	36人 (48.6%)	23人 (31.1%)

全体数 74人

II-1 仮説

色の濃淡が濃いほど重く感じ薄いほど軽く感じる。

II-2 実験方法

色紙の色を赤, 青, 緑でそれぞれ濃いものと薄いものに変えてI-2と同様の方法で薄い赤, 濃い赤, 薄い青, 濃い青, 薄い緑, 濃い緑の順に実験を行った。



図3

II-3 実験結果

青については仮説通りの結果が得られた。

赤, 緑については、仮説通りの結果が得られなかった。

II-4 考察

赤, 白, 黒はイメージによる影響を受け、青は明度の影響を受ける。

赤は色に対するイメージが強いため色の濃淡の影響を受けず、緑は色に対するイメージにバラつきがあるため濃淡の影響を受けないことが明らかになった。

このことから軽く感じさせるために、宅配便などで使用する段ボールの色は白や薄い青を使用するとよい。

II-5 今後の課題

白と薄い青などの色同士の比較ができていないため、今後は色同士での重さの感じ方について研究する。

【参考文献】

- ・伯水永志 物流現場において重さの判断に及ぼす色彩の影響に関する研究 東京商船大学平成15年度卒業論文, (2004)

表2 II-3 実験結果

	赤(薄)	赤(濃)	青(薄)	青(濃)	緑(薄)	緑(濃)
重い	25人 (42.4%)	34人 (57.6%)	16人 (27.1%)	31人 (52.5%)	14人 (23.7%)	13人 (22.0%)
同じ	22人 (37.3%)	13人 (22.0%)	12人 (20.3%)	13人 (22.0%)	27人 (45.8%)	29人 (49.1%)
軽い	12人 (20.3%)	12人 (20.3%)	31人 (52.2%)	15人 (25.4%)	18人 (30.5%)	17人 (28.8%)

全体数 49人

自撮りで性格診断？！

ビッグファイブにおける性格と写真の写り方の傾向の関係性

水野 瑛梨 原 七穂 中平 紫央里 木村 優里 原田 果歩

要旨

本研究では、写真の写り方の傾向と写る人の性格の相関の有無について調べた。今回は NEO-FFI を用いて性格を5つの性格特性に分類し、写真の写り方に関する自作アンケートと比較分析を行った。その結果、様々な状況での写真の写り方と複数の性格特性に相関があることが明らかになった。

キーワード：自撮り、ビッグファイブ、NEO-FFI、性格、5因子モデル、写真

1 序論

最近、若者を中心として、自分を撮影した写真や動画を SNS に投稿する人が増えている。しかし、写真の写り方は多種多様である。さまざまな生徒と教育相談を行う学校において、各生徒の性格を正確に把握することは重要である。そこで多くの生徒が利用経験のある写真の写り方から性格分析ができないかと考え、研究を開始した。そして写真の写り方と性格の関係性について、倉敷天城高校1年生の生徒200人に自撮りに関する自作アンケートと NEO-FFI による性格検査を行い、2つの調査から得られるデータについて統計分析を行った。

～ビッグファイブとは～

人間の持っている多くの性格を代表的な5つに分類するという考え方である。NEO-PI-Rは、5つの性格特性を測定するための人格検査の1つであり、情緒不安性(N)、外向性(E)、開放性(O)、協調性(A)、誠実性(C)に分類され、これはビッグファイブ(5因子モデル)と呼ばれている。下仲らの研究によると、他の心理特性よりも性格特性が多く、信頼性が高い。本研究では、項目数の多いNEO-PI-Rではなく、短縮版であるNEO-FFIを用いた。

2 研究方法

- A [写真の写り方について] 1人で撮影し、写真は非公開にする・1人で撮影し、写真は公開する・2人で撮影し、写真は非公開にする・2人で撮影し、写真は公開する、の4つの状況を設定し、それぞれ①表情(真顔、笑顔、変顔)・②ポーズ(何もしない、ピース、顔の一部を隠す)・③加工(する、しない)の全3問を用意し、最も当てはまる選択肢を1つ回答させる。
- B [性格について] NEO-FFIを用いて、性格を5つの項目に分けて数値化した。
- C A, Bはそれぞれ記名制で、2つのアンケートを過不足なく回答したデータのみをMicrosoft® Excelを用いて統合した。回答者200人のうち、有効な回答をしたのは158人だった。
- D 統計分析ソフト SPSS を用いて自撮りに関する自作アンケートで得られた写り方の分類の結果を、NEO-FFIで得られた5因子の得点における有意差の有無を分析した。分析手法には、異なる2群の標本の有意差を調べる検定であるMann-WhitneyのU検定と異なる3群以上の標本の有意差を調べる検定であるKruskal-Wallisの検定を用いた。
- E 有意差のある項目について写り方の違いによって性格特性の数値にどのような変化があるかをMicrosoft® Excelで求めた。

3 結果

- A NEO-FFIによって得られた数値について、質問①、②はKruskal-Wallisの検定、③はMann-WhitneyのU検定を用いて分析を行い、有意差があったものを表1～4に示す。いずれも有意水準は0.05とする。

表1 1人/非公開での、質問①、③と各性格因子の有意差 表2 1人/公開での、質問③と各性格因子の有意差

1人/非公開	E	A	C
質問①(表情)	0.004	0.025	0.018
質問③(加工)	—	—	0.000

1人/公開	C
質問③(加工)	0.036

表3 2人／非公開での、
質問①、②、③と各性格因子の有意差

2人／非公開	E	O	A	C
質問①（表情）	—	0.008	0.003	—
質問②（ポーズ）	—	0.037	0.027	—
質問③（加工）	0.01	—	0.046	0.000

表4 2人／公開での、質問①、③と各性格因子の有意差

2人／公開	E	A	C
質問①（表情）	—	0.013	—
質問③（加工）	0.027	—	0.026

B Aによって有意差が認められた質問①、③の5因子得点の平均値を表5、6に示す。

表5 質問①での結果

1人／非公開	外向性	協調性	誠実性	2人／非公開	開放性	協調性	2人／公開	協調性
真顔	24.6	26.6	23.2	真顔	23.1	21.9	真顔	21.8
笑顔	28.6	<u>29.7</u>	26.3	笑顔	28.7	<u>29.3</u>	笑顔	<u>28.9</u>
変顔	<u>29.3</u>	29.5	<u>27.0</u>	変顔	<u>29.7</u>	27	変顔	27.1

表6 質問③での結果

1人／非公開	誠実性	1人／公開	誠実性	2人／非公開	外向性	協調性	誠実性	2人／公開	外向性	誠実性
加工しない	23.4	加工しない	23.8	加工しない	25.2	27.1	22.9	加工しない	25.3	23.5
加工する	<u>27.9</u>	加工する	<u>26.2</u>	加工する	<u>28.6</u>	<u>29.5</u>	<u>27.1</u>	加工する	<u>28.1</u>	<u>26.1</u>

※下線は各因子において平均値の最も高い数値を示す。

4 考察

表5より、真顔を選んだ人と笑顔、変顔を選んだ人で分けて考察を行ったとき、協調性の平均値はいずれの場合も笑顔、変顔を選んだ人のほうが高かった。これは、笑顔は誰もが頻繁に行う表情であり、集団生活の場において周りになじもうとするために笑顔を選択し、また変顔は集団生活において娯楽活動を行うときに変顔が楽しみの素材となり、いずれも集団生活における自分の関係を崩さないようにしているためだと考えられる。1人／非公開のときのみで笑顔、変顔を選んだ人が外向性の平均値が高かったのは、1人なので、好奇心でいつもと違う笑顔や変顔で写真をとってみたいと考えるからだと考えられる。

表6より、1人／非公開、1人／公開、2人／非公開、2人／公開のいずれの場合も、加工すると選んだ人のほうが誠実性の平均値が高かった。誠実性の値が高い人は、集団生活において秩序を守ろうとする傾向がみられる。これは、近年のプリクラなどの普及により、仲の良い人と写真を撮るといことは、加工することだという固定観念や、加工しなければならぬと思込み、集団の関係を保つために加工しなければならぬという使命感を持ってしまうからだと考えられる。2人のときは、公開、非公開にかかわらず、加工すると選んだ人のほうが外向性の平均値が高かった。これは、好奇心から新しいものを使うことによって、集団の関係を維持したいと思うからだと考えられる。

以上から、性格が写真の写り方の好みを決定していると考えられる。

5 今後の課題

今回は、男女にかかわらず、写真の写り方の傾向と写る人の性格の相関の有無について調べたが、今後は性別の違いによって、写真の写り方の傾向と写る人の性格の相関の有無の差を詳しく調べていきたい。また、機会があれば、追加アンケートの実施によるより詳しい分析を進めていきたいと思う。

【参考文献】

- ・加藤司：[改訂版] 心理学の研究法-実験法・測定法・統計法，北樹出版，pp.75-76，(2007)
- ・氏原寛・岡堂哲雄・亀口憲治・西村洲衛男・馬場禮子・松島恭子：心理査定実践ハンドブック，創元社，(2006)
- ・村上秀俊，ノンパラメトリック法（統計解析スタンダード），朝倉書店，(2015)

若者の言葉遣いと性格の関係性

三宅 喜子 清水 理瑚 中務 琴巳 國安 真由

要旨

近年若者は独自の言葉や、省略された言葉を使用することが多く、その言葉は多種多様である。本校の生徒を対象に5因子モデルをもとにしたNEO-FFIを用いた調査と若者の言葉遣いに関する質問紙調査を実施し、比較分析を行ったところ、一部の若者言葉を使用する人にいくつかの因子において、一定の傾向があることが明らかになった。

キーワード：若者の言葉遣い、性格、NEO-FFI、ビッグファイブ、SPSS

1 序論

普段、友達と会話するとき使用する言葉が使用する人や状況によって異なることに対して疑問を持ち、人の使用する言葉の種類と使用する人の性格に反映されているのではないかと思い、今回の研究を実施した。本研究では、NEO-FFIを用いた性格分析データと代表的な若者言葉五つを選び作成したアンケートデータについて関係性があるのではないかと思い、比較分析を行った。

2 本研究で使用する専門用語

○ビッグファイブ…人の性格を5つの要因で表したもの（5因子モデル）で、その5つの要因はさらに6つずつの次元に分類されるものである。その中の「NEO-FFI」とは、その5つの要因のみが測定されるものであり、下位次元に関する情報は得られない。

○有意水準…統計上、ある事象がおこる確率が偶然とは考えにくいと判断する基準となる仮説。一般的に0.05が基準となる。

3 仮説の設定と検証

(1) 仮説の設定

言葉遣いの要因が性格によるものか、次の仮説を設定し、2つのアンケート結果を統合することにより検証することを試みた。

【仮説】人の会話や文章（SNS上を含む）で若者言葉を使用する基準は、使用者の性格に関係性がある。

(2) 検証方法

①5因子モデルをもとにしたアンケートであるNEO-FFIを天城高校一年生200人に実施した。

②自作アンケートを制作し、同人数に実施した。

※アンケート内容…話し言葉・書き言葉において「それな」「おけ・おk」「ほぼほぼ」「ww(笑)」「マジ」のそれぞれの使用頻度を聞いた。(1よく使う 2少し使う …の四点方式で行った)

③①,②で得られた結果を、Microsoft(R)Excelを用いて統合し、回答者200人中、アンケートを過不足なく答えた164人のデータを分析に使用した。

④統計処理ソフトSPSSを用いて、NEO-FFIで得られた5因子の得点と自作アンケートによって得られた使用頻度の分類における有意差の有無を分析した。分析方法には、異なる2群の標本の有意差を調べる検定であるMann-WhitneyのU検定を用いた。

⑤追加の自作アンケートを制作し、同人数に実施した。

※アンケート内容…A「マジ」の使用の有無と、話し言葉においてこの言葉を使う相手を「家族・同級生の同性・同級生の異性・先輩・後輩・先生」の中から複数選択した。B「マジ」の使用の有無と、書き言葉においてこの言葉を使う相手を「手紙・メール・LINE・Twitter(DMを含まない)」の中から複数選択した。

⑤追加のアンケートの結果をMicrosoft(R)Excelで集計し統合した。

(3) 結果

表1より、話し言葉の「マジ」の使用有無と神経症傾向、誠実性に有意差が見られた。同様に書き言葉の「マジ」でも神経症傾向の有意差が見られた。また表2から、話し言葉の「マジ」を使う人の神経症傾向の平均が使わない人の平均より高く、使わない人は誠実性の平均が使う人より高いことがわかる。また、書き言葉の「マジ」を使う人の神経症傾向の平均も使わない人の平均より高いことがわかる。

追加アンケートAより、使う相手と使用頻度は関係性がないことがわかった。

表1 質問文の分類と性格因子における有意確率

質問文	性格因子	有意確率
話し言葉で「マジ」を使うか	神経症傾向	0.014
書き言葉で「マジ」を使うか	神経症傾向	0.036
話し言葉で「マジ」を使うか	誠実性	0.012

表2 使用有無と性格因子の平均値

		神経症傾向	誠実性
話す「マジ」	使う	29.937	23.993
	使わない	24.857	28.429
書く「マジ」	使う	30.245	
	使わない	27.287	

※有意水準は0.05

4 結論と考察

まず、マジを使う人は神経症傾向が高かったことについては、神経症傾向の下位次元の一つに分類される衝動性が主に高いのではないかと考えた。その理由としては、マジは話しやすく打ち込みやすいためコミュニケーションにおいて端的に、かつ即時に感情を相手に伝えることができ、深く考えずに送るのではないかということがあげられる。衝動性の値が高い人は、例えば日常生活において突発的に話を始めるなどの衝動的な行動をとりやすいのではないかと考えた。次に、誠実性が低いことについては、下位次元である慎重が主に低いのではないかと考え、その理由としても神経症傾向のものと同じことが言える。慎重の値が低い人も、衝動性の値が高い人と同じような行動をとりやすいのではないかと考察した。

よって仮説どおり一部の若者言葉の使用頻度と性格には神経症傾向が高く、誠実性が低い関係性があると考えられる。

【引用・参考文献・参考Webページ】

1) 最近の女子高生がよく SNS で使う流行りの若者言葉ランキング 53 選

2016(<http://jikitourai.net/schoolgirl-use-expression/3>), 2017年1月18日アクセス

・ 涌井良幸, 涌井貞美: 「統計学の図鑑」技術討論社, (2015)

・ 氏原寛, 岡堂哲雄, 亀口憲治, 西村洲衛男, 馬場禮子, 松島恭子: 「心理査定実践ハンドブック」創元社, (2006)

・ 加藤司: 「[改訂版]心理学の研究所—実験法・測定法・統計法—」北樹出版, (2008)